



久樹 平野 議員

人事行政について

職員の定員適正化計画は

質問

定員適正化計画について毎年目標を変更するのか。また定員削減の目標をどのように進めるのか伺う。

市長答弁

定員適正化計画の目標については、平成27年度の目標値を577人として、行政改革調査推進特別委員会に報告しており、この目標値は固定している。広報おしらせばんで示した人数は、現時点において、今後見込まれる定年退職者と

新採用予定の職員数を基に推計した人数であり、各年度の退職者・新採用職員の実績により変動する。

目標達成に向けての取り組みについては、平成22年度までは退職者に対する新採用職員割合を原則3分の1とする方針で進め、それ以降は退職者の動向を把握し、事業の見直しや民間委託に取り組み、早期達成に努めていく。

質問

人事考課制度の本格導入の時期、制度による目的達成及び制度についての具体化について伺う。

市長答弁

人事考課制度の本格導入については、平成22年度を予定している。

目的達成については、この制度の実施により職員の資質向上、適性配置、公平・公正な処遇が達成できるものと考えている。

制度の具体化については、考課基準や考課期間の設定、考

課マニュアルの策定を完了しており、平成18年度から人事考課研修を実施し、職員に対して制度の周知を図っている。



実 田原 議員

糸魚川地域の医療の現状と課題は

他地域と比較した糸魚川圏域の医療状況は

質問

県内他地域と比較した糸魚川圏域の医療状況、県との連携及び旧姫川病院閉院による市民への影響とその後の行政

対応について伺う。

市長答弁

当市の医療状況について、人口10万人当たりの医師数は、推計で131.9人となっており、県平均の185.2人と比べ医師数が少ない地域である。医療圏域での比較では、

新潟圏域が一番多く241.0人、一番少ない魚沼圏域は126.2人で、当市を含む上越圏域は153.7人となっており、今後も県と連携を取りながら医師確保対策等に努めていく。

旧姫川病院の閉院後の対応については、富山大学、糸魚川総合病院及び地元医師会を始め、県、関係機関に尽力いただいている。市としては糸魚川総合病院循環器病棟の整備補助や患者送迎代替バス運行などの緊急対策を行い、従前に近い医療体制を確保できたと考えている。

交流人口増大のための施策と戦略は

質問

都市農村体験交流事業、子ども農山漁村交流プロジェクトへの対応及びジオパーク事業の戦略とビジネスモデル構築について伺う。

市長答弁

農村体験事業等については、聖学院中学校との農村体験交流のほか、全国修学旅行協会や農林公社など市内外の関係団体と連携を図りながら、

グリーン・ツーリズム事業の推進に取り組んでいる。

子ども農山漁村交流プロジェクト事業については、当市で1校を受け入れている。

ジオパーク事業の戦略とビジネスモデル構築については、ジオパークを活用したビジネスや商売など、企業・事業者がそれぞれの分野で積極的に事業を展開していただけることを期待している。